

**南堺病院 伊藤慎八先生
がラジオ出演されました!!
放送内容を抜粋してお届けします。**



パーソナリティ
桑原征平
小寺(ABC7ナウンサー)



**オ
リ
ー
ブ
新
聞**



第31号
発行所
医療法人浩仁会

小) 今週のVIPゲストはですね、心臓病の方の再発や再入院を防止し、運動機能の維持と向上を目指して行う治療プログラム・循環器専門医による心臓リハビリで適切な運動療法指導を行っておられます、南堺病院・循環器内科部長・伊藤慎八さんにお越しいただきました。伊藤先生よろしくお願ひいたします。

伊) よろしくお願ひします。

桑) 実は私も今から六年ほど前ね、ちょうど私が75になった時の、誕生日でね。ものすごいホールケーキがたくさん来ましてね。で、土曜日で誰もおれへんかったんで、しゃあないから2個食べたんです。腹いっぱいになって、いつものように必死になって泳いで、400m泳いで、そしたら汗が止まらないようになってね。これ、おかしい、と。ほんで救急車呼んでもらって、病院行ったら、もう完全な心筋梗塞ですね。で、ステント入れてもらって入院したんですけどね。もうほんまにあの時はどうなるかいなと思いましたが。あんな汗って出るもんですね。

伊) そうですね。もうなんか冷たい汗がだらだらとでるような感じですね。

桑) で、1週間入って退院してほんでずっと病院行ってたんですけど、もうプール行っても大丈夫です、と。それからずっとまた全く昔と同じように泳いで。週4回、400m全力で泳いで、心臓カッカカッカさせても大丈夫なんですけど。一回こうやってステントが血管に入るゆうことはやっぱり注意せなあかんのですか？

伊) 薬を飲み忘れたりとかすると、やっぱり、また詰まるリスクが増えたりしますね。

桑) なんでこのまた、伊藤内科部長はドクターを目指はったんですか？

伊) 僕、理系に行きたくて。結構まあ医学部幅が広いので、幅の広い学問をちょっとやりたいなと思って、医学部を目指したって感じですね。

桑) (心臓で) やっぱり一番多いというのは何ですか？ 病気として。

伊) 心筋梗塞とか。狭心症が多いんじゃないかなと思いますね。でも今はやっぱり心不全が増えてる。

桑) 増えてるとするのは、遺伝的なものなのか、生活ぶりなのか？

伊) やっぱりまあ高齢化が進んだのと、あとはあのほかの心臓の病気が全部助かるようになってきたんで、最終的には全部心不全になっていくっていうような流れで、どんどん心不全の患者さんが増えてると思います。

桑) そして今は南堺病院。その中でやりがいというのは、やっぱり手術した、成功した、そしてその人が元気になって退院する？

伊) 今はですね、手術あんまりしてなくて、ちょっと携わってるぐらいなんですけど。今、結構リハビリメインのところにいるんで。だから心不全患者さんが結構来られて、そういう方の道筋を最後つけてあげるっていうか、家に帰るのか、他の所に行くのかっていうところのマネジメントしてるっていうのが大きな業務です。

桑) 内科部長になるまで頑張ってきた伊藤先生ですけれど、やっぱりあれは教訓になったなあというのは、今思い出してもありますか？

伊) ありますね。それはちょっと説明がなかなか上手いなくて、患者さんの家族にですね。後期研修医ぐらいの時なんですけど。その時をすごい振り返って、それ以降はずい説明とかに気を遣うようになりましたね。やっぱり説明めちゃうちゃ大事ですね。

桑) 我々ちゃんと先生に説明受けてるけど。やっぱり人によってやっぱり受け方が違うんですね。

伊) おっしゃる通りでして、なかなか医者と患者さんの間ですごい差があるんで、そこを埋める努力をなかなか我々もあまりやれてない部分もあるので、そこに気付いたって感じですかね。

桑) やっぱりドクターも上に行けば行くほど、人に患者さんに対する言葉というのは重要ですね。

伊) 重要ですね。

小) ということでお時間になってしまいましたが、2025年たばかりですけど、今年の目標なんかは何かありますか？

伊) 心臓リハビリも、去年の6月に立ち上がったばかりですので、まずはですね、その心臓リハビリやってるっていう知名度を上げて。心臓リハビリっていうのは、副作用のない薬みたいなもので。どれぐらい運動したらいいのかって困っちゃう方がいると思うんですけど、そういう人が、症状をちょっとでも良くするためのリハビリですので、お気軽に相談いただけたらいいかなと思ってます。心臓リハビリは、南堺病院理事長の結構三年ぐらいの悲願でして、やっと立ち上がったということで。

小) まだ本当ご存知のない方多いと思うんですよ。是非この心臓リハビリ。皆さんもね、覚えていただきたいと思います。本日は伊藤慎八先生にお越しいただきました。先生、ありがとうございました。

